



Contents

- 新年のご挨拶
- 2020年の活動報告
- 主催イベントのご案内
- 2020年を振り返って
- 調査・研究レポートのご案内
- 編集後記



■ 新年のご挨拶



新春に当たり、皆様方のご健康とご活躍を心よりお喜び申し上げます。旧年中は皆様にご支援をいただき、深く感謝申し上げます。

二十世紀を「極端な時代」(エリック・ホブズボウム)と言い表した人がいましたが、その趨勢は二十一世紀になって、ますます加速しているように見えます。メディアが多様化し、フェイクニュースの流布やポスト真実が日常的になり、そして二〇二〇年代最初の昨年には、新型コロナウイルスによるパンデミックが全世界を襲いました。なお、その行方は予断を許しません。このようななか、私どもは改めて図書館という社会機関が、人々の暮らしにおいて大切な役割を担っていることを日々強く感じているところであります。

混迷する状況下、皆様とともに、これからの図書館のあり方を追究していく所存であります。本年も、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

二〇二一年一月

未来の図書館 研究所

所長 永田 治樹

2020年の活動報告

- 3月 ■ 第4回シンポジウム「図書館とランドスケープ」の記録を公開しました
■ 『未来の図書館 研究所 調査・研究レポート』Vol.3 を発行しました
- 4月 ■ 動向レポート増刊号「新型コロナウイルス影響下の図書館：図書館の取組」を発行しました
- 5月 ■ LIBRARIANS' FORUM 2020「COVID-19 パンデミックが私たちに問いかけるもの」(後編)にて、所長永田が「ポスト真実の名残のなかのインフォデミック」をテーマに発表しました
■ 動向レポート増刊号「新型コロナウイルス影響下の図書館：再開に向けた取組」を発行しました
- 6月 ■ 「令和2年度都立図書館の在り方に係る調査検討等業務委託」を受託しました
■ ウェビナー「図書館の未来を拓くスキル」(全3回)を開催しました
- 7月 ■ 昨年度受託した「令和元年度都立中央図書館の在り方に係る調査検討等業務委託」に関わる中間報告が『AI時代の都立図書館像』として、東京都教育委員会のWebサイトに掲載されました
▶ <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/lifelong/facility/library/files/measure/tyuukanhoukoku.pdf>
- 10月 ■ 第4回ワークショップ「図書館員の未来準備」を開催しました
■ 石川県公共図書館協議会主催講演会にて、所長永田が講師を担当しました。当日の講演「図書館の効果をどうとらえるか」のスライドを当研究所Webサイトにて公開しています
▶ http://www.miraitosyokan.jp/future_lib/lecture/lecture20201002.pdf
- 11月 ■ 第5回シンポジウム「図書館とレジリエンス」を開催しました

■の項目については、次ページ以降で詳しくご紹介します！

■ 未来の図書館 研究所 主催イベントのご案内

■ ウェビナー「図書館の未来を拓くスキル ～ヒト・モノ・コトをむすぶ場づくり」

当研究所初のオンラインイベントとなりましたウェビナーでは、図書館と地域をむすぶ協議会の太田剛氏をお招きし、6月～7月に全3回で開催いたしました。このウェビナーの内容については、参加者の高野一枝さまが、「自治体ポータル」Web サイトでのコラム「図書館つれづれ」にて、本ウェビナーに参加しての感想や講義内容について、分かりやすくまとめています。以下の URL からぜひご覧ください。

図書館つれづれ[第76～78回]「図書館の未来を拓くスキル」ウェビナーからの報告

- ・第1回「図書館の本来と将来を考える～図書館づくりの実践から」

<https://www.nec-nexs.com/supple/autonomy/column/takano/column076.html>

- ・第2回「ヒト・モノ・コトをむすぶ場づくりの実践」

<https://www.nec-nexs.com/supple/autonomy/column/takano/column077.html>

- ・第3回「これからの図書館と図書館員のスキルを考える」

<https://www.nec-nexs.com/supple/autonomy/column/takano/column078.html>



■ 第4回ワークショップ「図書館員の未来準備」

図書館員の皆さまのための未来準備として、「図書館情報システム」と「図書館の役割」の領域を設定し、ワークショップを開催しております。2020年は、領域「図書館の役割I(図書館と地域コミュニティ)」について、テーマの更新をし、新しい講師の方々に加わっていただきました。オンライン開催となりました今回は、PCを使用した3Dモデリングやプログラミングの演習、オンライン付箋サービスを利用したブレインストーミングなど、実り多きワークショップとなりました。例えば、下の写真のように図書館内の様子を中継したワークショップは、気軽に図書館見学もできない今、受講者の評価も高かったです。首都圏以外の方にも多くお申込みをいただき、これまで当研究所のイベントに参加が難しかった遠方の皆さまとのつながりを得られる、よい機会となりました。2021年も皆さまのご期待に沿えるよう、魅力あるワークショップを企画してまいります。



■ 第5回シンポジウム「図書館とレジリエンス」

未来の図書館に関わるテーマで、知識を深め、議論するシンポジウムを開催しております。近年予想もしないような事態が頻繁に起きるようになって、レジリエンスが注目されています。そこで今回は、災害から図書館とコミュニティがどのように立ち直ったか、人々やコミュニティを日々のように支えているかなどの事例を踏まえて、「図書館とレジリエンス」を考えました。名取市図書館館長の柴崎悦子氏、鳥取県立図書館の三田祐子氏をパネリストとしてお招きし、コーディネーターは所長 永田が務めました。ディスカッションでは、図書館パートナーズの小田垣宏和氏、図書館と地域をむすぶ協議会の太田剛氏からコメントをいただきました。

当日のシンポジウムの様子は、未来の図書館 研究所 YouTube ページにて、期間限定(2021年1月中旬まで)でアーカイブ配信を行います。こちらの URL <<https://www.youtube.com/watch?v=u8dBCZDmj4c>>または以下の QR コードからご覧ください。

当日のプログラム

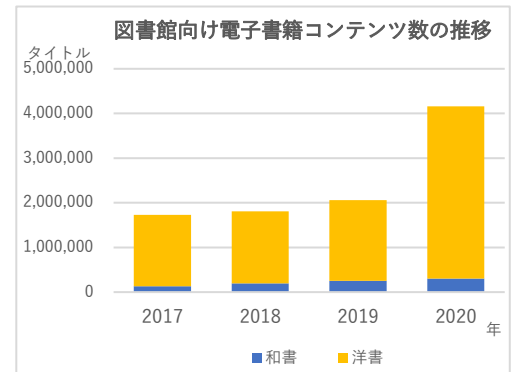
1. 開催のあいさつと趣旨説明 (永田 治樹)
2. 講演「名取市図書館における東日本大震災からの復旧と復興」(柴崎 悦子氏)
3. 講演「情報支援とレジリエンス ～鳥取県立図書館の取り組みから」(三田 祐子氏)
4. ディスカッション



■ 2020 年を振り返って —新型コロナウイルス影響下の図書館

当研究所では、日常的に公共図書館に関わる動向の把握に努めています。それらのうち、図書館員、研究者、自治体の図書館担当者など、種々の利害関係者の間で共有することに意味のある情報・知見を、ウェブサイトに『動向レポート』として公表しています。2020 年は「新型コロナウイルス影響下の図書館」として、臨時休館中の図書館の取組と、再開に向けた取組について、いわば速報版として、4 月と 5 月に増刊号を発行しました。saveMLAK の調査による「全国公共図書館休館率状況」によると、全国の公共図書館の 91.8% が休館していた 5 月 6 日時点と比べると、11 月 21 日時点では 0.2% と、現在ではほとんどの図書館が開館しています。再開したとはいえ、今なお休館前の状態に戻ったとはいえない状況ですし、同じ状況に戻れるわけではないでしょう。図書館を取り巻く状況は大きく変化しています。特に、電子書籍貸出サービスやオンラインでの情報発信など、オンラインサービスの充実化に向けて、前進した 1 年でした。

電子出版・制作流通協議会の『電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2020』によると、電子図書館・電子書籍貸出サービス事業者主要 9 社の提供する電子書籍コンテンツ数は、右のグラフのとおり 2020 年は洋書を中心に大きく増加しています。また、公共図書館における 2020 年 10 月 1 日現在の電子書籍貸出サービス実施自治体数は 114 自治体であり、前年の調査同時期比較で 25 件の増加となっています。2019 年の調査では 8 件の増加であったことと比較すると、大きな伸びとなっています。全国の公共図書館に対する「電子図書館アンケート調査」においても、「電子書籍貸出サービスの導入を今後予定しているか」について、「実施する予定がある」「実施を検討中」と回答した図書館は 189 館 (38.9%) と、昨年値 95 館 (22.6%) から大幅に増加しています。一方で、「実施予定がない」と回答した図書館は 205 館 (42.2%) と、昨年値 264 館 (62.9%) から大きく減少していますが、いまだに 4 割以上の図書館は導入予定がないとしています。電子書籍貸出サービスが当たり前の中となるには、もう少し時間がかかりそうです。



文化庁文化審議会著作権分科会では、7 月に「図書館関係の権利制限規定の在り方に関するワーキングチーム」を設置し、権利者の利益保護に十分に配慮しつつ、デジタル・ネットワーク技術を活用した国民の情報アクセスを充実させる観点から、「入手困難資料へのアクセスの容易化」と、「図書館資料の送信サービスの実施」の二つの課題について検討が開始され、11 月 13 日には『図書館関係の権利制限規定の見直し(デジタル・ネットワーク対応)に関する報告書』を公表しました。「新たに図書館等によるメール送信等を可能とすることに伴って権利者が受ける不利益を補償するため、補償金請求権を付与することが相当である」とし、出版業界や著作権者団体の一部からは早くも不満や反発の声が上がっています。この報告書は、文化審議会著作権分科会法制度小委員会の議論を経て、『図書館関係の権利制限規定の見直し(デジタル・ネットワーク対応)に関する中間まとめ』とし、12 月 4 日から 21 日まで、意見募集(パブリックコメント)が行われました。日本図書館協会や図書館問題研究会などの図書館団体は、補償金制度や制度設計についてそれぞれ意見表明しています。

こうしたオンラインサービスの充実化が進展し、来館の必要がなくなれば、図書館の建物、施設のあり方も変化せざるを得ません。例えば、「図書館資料の送信サービスの実施」が実現すれば、即座に資料の複写データを得ることができ、書庫を別の場所に置くことなども考えられます。ニューヨーク公共図書館では、他の大学との共同書庫の運用コンソーシアム ReCAP で、既に実現されています。

また、米国最大の建築設計事務所であるゲンスラー社によるアメリカ図書館協会のメンバーに対する「次世代の図書館を構成する要素」についての調査では、「コミュニティとソーシャルサービス」という回答が最も多く、次いで「図書館スペースを分散させる、サービスポイントを増やすこと」でした。リモートサービスの公平性の確保と並んで、これからの図書館という「場」の選択肢が多様になっていくかもしれません。

前述の動向レポート増刊号では、「新たな「場」をつくり地域・コミュニティへ寄り添った新しい活動は、再開後の図書館をよりよいものにしていくに違いない」と結びました。2020 年の図書館は、その言葉の実現に向かって、確実に前進しました。2021 年も、継続して図書館の動向をとらえていきたいと思えます。

■ 参考資料

- ・saveMLAK プロジェクト。COVID-19 の影響による図書館の動向調査 (2020/05/06) について。
「<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20200507>」。(参照 2020-12-22)。
- ・saveMLAK プロジェクト。COVID-19 の影響による図書館の動向調査 (2020/11/27) について。
「<https://savemlak.jp/wiki/saveMLAK:%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9/20201127>」。(参照 2020-12-22)。
- ・植村八潮、野口武悟ほか(編著)。電子図書館・電子書籍貸出サービス調査報告 2020。電子出版制作流通協議会。2020。
- ・図書館関係の権利制限規定の在り方に関するワーキングチーム。図書館関係の権利制限規定の見直し(デジタル・ネットワーク対応)に関する報告書。
「https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/chosakuketu/toshokan_working_team/pdf/92654101_02.pdf」。(参照 2020-12-22)。
- ・Anthony Harris, Allison Marshall, Sara Rothholz Weiner. Design Ideas for the Post-Pandemic Public Library.
「<https://www.gensler.com/research-insight/blog/design-ideas-for-the-post-pandemic-public-library>」。(参照 2020-12-22)。

調査・研究レポートのご案内

未来の図書館 研究所では、私どもの研究に得られたところをとりまとめ、定期的に皆さまに紹介する機会として、2017年より『未来の図書館 研究所 調査・研究レポート』を発行しています。第4号となります次号では、第4回シンポジウム「図書館とランドスケープ」の記録と、第5回シンポジウム「図書館とレジリエンス」の記録、研究レポートには、第4回ワークショップにて講師をご担当いただきました、豊山希巳江氏(山武市成東図書館)にご寄稿いただく予定です。発行は、2021年3月を予定しております。次号の送付を希望される方は、下記の連絡先までお願いいたします。

バックナンバーについては、発行後5か月経過時点で、当研究所 Web サイトにて PDF 版を公開しております。

こちらのページ<http://www.miraitosyokan.jp/future_lib/>の「調査・研究レポート」の項目から、ぜひご覧ください。

編集後記

『未来の図書館 研究所 NEWS LETTER』4号をご覧くださいまして、誠にありがとうございました。いかがでしたでしょうか。ニュースレターに取り上げてほしいこと、もっと詳しく知りたいことなど、皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしております。

2020年は「数十年後の図書館」に触れるワークショップの機会が数回ありました。一つは都内の高校生・大学生を対象にした「20年後の公共図書館にほしいもの」についてのワークショップ、もう一つは本紙にも掲載している第4回ワークショップ「図書館員の未来準備」での一コマ、図書館員を対象にした「30年後の図書館に普通にあってほしいもの」についてのワークショップです。それぞれどんな意見が出たか、ほんの一部ですが、印象に残ったものをご紹介します。高校生・大学生からの意見では、他の人の解釈や本の解説などが映像で出てくる、感想やコメントがニコニコ動画のように流れてくるなど、「動画」「映像」という言葉、図書館員からの意見では、AIによるレファレンスやリモートレファレンス、世界の図書館との共同レファレンスサービスなど、「レファレンス」という言葉が目立ちました。また、高校生・大学生からの意見でしか聞かれなかったのが、「司書」についての意見でした。何でも知っている司書や自分専属の司書、本のスペシャリストなどいろんな意見がありましたが、「かっこいい司書」という言葉が印象に残りました。世間の「司書」のイメージといえば、なんでしょうか。個人的には、「かっこいい」とはなかなか言ってもらえないかなと感じています。ファッションや見た目だけよければ「かっこいい」わけではありませんが、「アメリカの司書は、シャネルのスーツを着ているよ」という某先生のお言葉を、ふと思い出しました。数十年後の司書が、「かっこいい職業」というイメージであってほしいなと感じました。

さて、当研究所のキャラクターMITOの秘密について、創刊号から続けてお話ししてまいりましたが、いよいよ今回で最終回となります。前号までご紹介したとおり、太陽光発電で動き、変形可能な、サステナブルでレジリエントな犬型ロボットであるMITOですが、実は目で見たこと、耳で聞いたことを記録(アーカイブ)する機能があります。ここまで言うと、なんか聞いたことあるなと思う方もいらっしゃるのではないのでしょうか。実は、ある小説からヒントを得て考えたキャラクターなのですが、なんの小説かお分かりになった方は、ぜひ

下記の連絡先まで、お気軽にご連絡ください。よろしければ、3周年記念の際に作成したMITOオリジナルクリアファイル(B5サイズ)を進呈いたします!

改めまして、本号もお付き合いいただきまして、誠にありがとうございました。

2021年も、MITOと未来の図書館 研究所をどうぞよろしく願い申し上げます。(木村 瞳)



発行

編集・発行:株式会社 未来の図書館 研究所

〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-12 鳩山ビル 7階

✉ info@miraitosyokan.jp ☎ 03-6673-7287 FAX 03-6772-4395

URL: <http://www.miraitosyokan.jp>  <http://www.facebook.com/miraitosyokan/>



図書館づくりのご相談、原稿執筆、講師依頼等、その他お気軽にご連絡ください。

これまでの実績について、「当研究所員が携わった仕事(2020.3現在)のご紹介」をWebサイトに掲載しています。